

(2018年 茨城県公立入試 類似)

- (2019年 千葉県公立入試 類似)

1. 陸奥宗光が全権大使となり、下関条約を締結することでロシアの艦隊を撤退させた。
2. 東郷平八郎が率いる連合艦隊が、日本海海戦においてロシアのバルチック艦隊を破った。
3. 海軍が日本海海戦で敗北したため、陸軍がシベリア鉄道を封鎖して勝利した。
4. 与謝野晶子が中心となってロシアとの講和を呼びかけ、戦場での戦闘を停止させた。

大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 第一次世界大戦に向けて、ドイツの勢力拡大を共同で抑え込むため | 2. 清との友好関係を強化し、ロシアと共同で朝鮮半島の近代化を支援するため | 3. 東アジアにおいて勢力を拡大していたロシアに対抗し、その進出を防ぐため | 4. アメリカの東アジア進出を阻止し、日本とイギリスによる貿易独占を強めるため |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|

(2021年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 文明開化（ぶんめいけいか）の風潮（ふうそう）の中で、西洋（せいよう）の技術（ぎじゆつ）や制度（せいど）を導入（だうにゅう）して国力（こくりき）を高（たか）めようとしていた。 | 2. 重化学工業（じゅうけいがくこうぎょう）が発展（はつしん）し、原料（げんりょう）の輸送（しゆそう）を効率（こうりつ）化（か）するために民間（みんかん）の資本（しやぽん）によって建設（けんせつ）された。 | 3. 日清戦争（にっしやうせんそう）の勝利（しょうり）を受けて、工業化（こうぎょうか）を加速（かすく）させるための全国的（こくりてき）な鉄道網（てうどうもう）が完成（わんせい）していた。 | 4. 鎖国体制（さこくたいせい）を維持（い）したまま、国内（こくに）の物流（ぶつりゆう）を活性化（かっせいか）させるために幕府（ばくふ）が建設（けんせつ）を主導（しゅだう）した。 |
|---|--|---|---|

(2020年 長野県公立入試 類似)

1. 日本国憲法と同様に「公共の福祉」が優先されると規定されていたため、社会の秩序を守る名目で制限が正当化されたから。
2. 国民には主権がなく、すべての自由は天皇の直接の命令（勅令）がなければ行使できない仕組みになっていたから。
3. 国民の権利は「法律の範囲内」でのみ認めると規定されており、法律によって権利の内容を制限することが可能だったから。
4. 憲法に権利の規定そのものが存在せず、すべての自由は政府の裁量によって決められる運用になっていたから。

(2017年 富山県公立入試 類似)

1. 日露戦争の最中に、ロシアから獲得した沿海州の資源を活用するために、北海道に建設された。
2. 筑豊炭田の石炭や中国から輸入した鉄鉱石を利用しやすい福岡県に建設され、鉄鋼の国産化を進めた。
3. 第一次世界大戦による大戦景気の影響を受けて、民間の資本のみで建設された日本初の製鉄所である。
4. 群馬県に建設され、フランスの技術を取り入れて生糸の輸出を拡大させる中心的な役割を担った。

類似)

1. 大統領制をとるアメリカの憲法 2. 君主権が強いドイツ（プロイセン）の憲法 3. 人民主権を基本とするフランスの憲法 4. 議会政治が発達したイギリスの憲法

(2016年 長崎県公立入試 類似)

1. 政府が内閣制度を創設したことで立憲体制が完成し、これに反対する大隈重信が民撰議院設立の建白書を提出したため、政府はやむを得ず大日本帝国憲法を発布した。
2. 板垣退助らが民撰議院設立の建白書を提出したことで自由民権運動が本格化し、その後、大隈重信らによる立憲改進黨の結成などを経て、大日本帝国憲法が発布された。
3. 廃藩置県によって中央集権化が進んだ直後、政府は国民の不満を抑えるために民撰議院設立の建白書を採用し、大隈重信を初代総理大臣とする内閣制度を創設した。
4. 大日本帝国憲法が発布されたことを受けて、板垣退助は日本で最初の政党である立憲改進黨を組織し、民撰議院設立の建白書を提出して議会の早期開設を求めた。

茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. ロシアとの間で結ばれていた日露協約の維持 | 2. ドイツ、イタリアとともに結んでいた三国同盟の履行 | 3. アメリカとの間で結ばれていた日米安全保障条約の遵守 | 4. イギリスとの間で結ばれていた日英同盟に基づく義務 |
|-------------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|

(2025年 徳島県公立入試 類似)

1. 化政文化 2. 富国強兵 3. 文明開化 4. 殖産興業

(2024年 青森県公立入試 類似)

1. 下関条約 2. 日朝修好条規 3. 日清修好条規 4. 天津条約

(2017年 岩手県公立入試 類似)

1. 板垣退助が提出した「民撰議院設立の建白書」がきっかけとなり、大隈重信が政府内で実権を握ることになった。
2. 大隈重信が政府を追われたことで、自由民権運動は勢いを失い、国会開設の計画は無期限で延期されることになった。
3. 国会の早期開設を主張する大隈重信が政府を去り、同時に政府が「国会開設の勅諭」を出して10年後の国会開設を約束した。
4. 自由党の結成に危機感を抱いた伊藤博文が、大隈重信と協力して内閣制度を創設し、自身が初代総理大臣に就任した。

(2023年 長崎県公立入試 類似)

1. 綿糸の輸入量が増加したことで、国内の綿花栽培が再び盛んになった。
2. 大規模な紡績工場の発展により、綿糸の輸出量が輸入量を上回った。
3. 原料の綿花を国内で自給できるようになり、綿糸の生産コストが大幅に低下した。
4. 重化学工業が飛躍的に発展し、鉄鋼の輸出額が生糸の輸出額を超えた。